

本郷台中だより

31 学校だより第 10 号
令和 2 年 1 月 8 日
文京区立本郷台中学校
校長 齊藤 正富

この一年、さらに成長するために

生徒の皆さん、新しい年、令和 2 年（2020 年）を迎えました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

「平成」から「令和」に元号が変わって、初めての正月でした。特に何も変わらなかったと思うことができるのが一番良いと思いますが、一方で何か新鮮さを感じられた正月ではありました。

始まったばかりの一年をどのような一年にしたいか、目標を考えた人がいると思います。私は、私たちの本郷台中学校を

『文京一の学校』にすること、『自己実現できる学校』にすること

の 2 つを目標に掲げました。

一つめの「文京一の学校」にすることは、勉強だけでなく、スポーツや文化に関する活動等、皆さんが日常の中で取り組むことができるさまざまな〇〇活動において、学校の内外から『〇〇は、本郷台中学校が、文京区で一番だよ』と評価していただける取組を一つずつ、着実に増やしていこうということです。究極の目標は、すべてにおいて一番になることだとは思いますが、それを達成させるための積み重ねを一つ一つ怠らないことを大切に、この一年も取り組もうと思います。そうした取組を通じて、他の区立中学校 9 校と切磋琢磨し、各中学校の魅力が高まれば素晴らしいことです。

二つめの「自己実現できる学校」にすることは、「なりたい自分になれる学校」と言い換えることができます。皆さん一人一人が、「自分は〇〇になる」と目標を決めたら、「〇〇」になるための努力を積み重ね、然るべき時期には、〇〇になっている自分がそこにいるということが、目標を達成した証しになります。

例えば、受験に臨む 3 年生は、「〇〇高校に入学する」（「合格」ではありません）とか、1、2 年生ならば、部活動で「大会で優勝する」や「コンクールで入賞する」などが、「なりたい〇〇」になります。学校では、皆さんのなりたい〇〇が叶うようにサポートして、一緒に手立てを考えたり、方法を探したり、時には皆さんを叱咤激励しながら、自己実現への取組を支えていきます。

中学生として過ごす 3 年間は、心身ともに大きく成長する時期です。しかし、自分と周りを比べてしまうと、思うようにならなかつたりすることが少なくありません。周りの多くの人ができることが、自分はできなかつたり、自分が考えていたことと結果が違ってしまったり、後悔を引き摺ってしまったりして、現実には、自分に自信がもてなくなることもあるのです。だからこそ、皆さんの周りには大人（保護者、家族、先生など）が、皆さんとさまざまな形で関わってくれているはずで、皆さんから見れば、その大人に対して、煩わしさや疎ましさを感じることもあるでしょうが、関わらなくてもよいことは一つもありません。まずは、大人の話を受け止めて、考えたり議論したりしながら、大人たちの話や行動を自分の栄養にするという発想をもってください。

私たちは、年齢を問わず成長できます。ただし、成長とは「プラス」だけでなく「マイナス」もあります。皆さんがプラスに成長するために必要なことは、しっかりと「目標」を設定し、どのように取り組んで達成させるか「計画」を立てて実践し、途中でも必要ならば修正して「成果」につなげる。その成果を「検証」して、さらに成長するために、次の「目標」を設定するということを繰り返すことです。これからの一年、成長する自分を楽しみに、毎日を元気に過ごしてください。

一日校長先生 リオデジャネイロパラリンピック パラトライアスロン 6位入賞

はた 秦 由加子 選手 来校

令和元年11月29日(金) 5～6校時に、「パラリンピアン 一日校長先生」を実施しました。

当日は、パラアスリート 秦 由加子 選手を招き、講演、質疑応答、実技と多彩な授業を展開していただきました。秦選手は、中学校1年生で患った骨肉腫により、右脚を大腿部から切断しなければならなくなったことや、そのことで自分をとても嫌いだったこと、幼い頃に習っていた水泳を再び始めたことで、パラトライアスロンに出会ったことなどを盛り込んだ話をしてくださったり、ご自身が、現在競技で使っている自転車などを本校生徒に提供して、競技中のうごきを体験させてくださったり、練習で採り入れているトレーニングプログラムで生徒と体を動かしたり、時間たっぷりの濃いプログラムの授業になりました。

「障害があることは、特別ではない。」という考えをもち、実践されている印象を強く感じるとともに、授業の最後に、「2020パラリンピック東京大会に出場し、メダルを獲る」ともおっしゃっていました。ぜひ、達成してもらいたいですね。その時は、秦選手を全校で応援したいと思います。

いのちと心の授業 日本医科大学付属病院 高度救命救急センター長

よこた ひろゆき 横田 裕行 先生 来校

令和元年12月13日(金) 5～6校時に、「いのちと心の授業」を実施しました。

当日は、区内にある日本医科大学付属病院高度救命救急センター長 横田 裕行 先生をお迎えし、命を救い守る現場の実態を通じて、命の大切さと人の尊さについて、中学生にもわかりやすくお話ししていただきました。皆さんの中には、ドラマや映画になった「コードブルー」をイメージした人が多かったようですが、現実はもっと厳しく過酷な状況だとわかりました。

また、ドクターカーをはじめ、放射能・化学薬品等が原因の事故にも対応できる国内に一台しかない特別車両を見せていただくこともできて、皆さんだけでなく参観した保護者や地域の皆様も、真剣に横田先生のお話を聴いていらっしゃいました。

生徒の表彰

がんばっています、本郷台中生

東京都 読書感想文コンクール

佳作 3A女子

東京都 歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクール

佳作 3B女子

文京区 環境保全ポスターコンクール

佳作 2A女子

佳作 2B女子

【保護者の皆様、地域の皆様】改めまして、本年もどうぞよろしくお願いいたします。

いつも「本郷台中だより」をご覧くださいありがとうございます。毎回、皆様に学校や生徒の取組などを内容としてお伝えしておりますが、今回は年頭にあたり、生徒向けのメッセージを通じて、学校として取り組むことを皆様にお伝えさせていただきました。

また、保護者の皆様におかれましては、本校の取組に関する「学校評価」アンケートにご協力をいただき、ありがとうございました。集計結果等については、今年度中にご報告いたします。